

# 心理学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
実験心理学概論 (心理学概論)	心理学の基礎知識とその応用	2	坂井 信之	3	前期 月曜日 5講時	
実験心理学概論 (心理学概論)	心理学概論	2	河地 庸介	4	後期 水曜日 4講時	
社会心理学概論 (社会・集団・家族心理学)	社会・集団・家族心理学	2	辻本 昌弘	3	前期 木曜日 1講時	
社会心理学概論 (社会・集団・家族心理学)	社会・集団・家族心理学	2	荒井 崇史	4	後期 金曜日 3講時	
心理学実験	心理学基礎実験	2	阿部 恒之.坂井 信之. 辻本 昌弘.河地 庸介. 荒井 崇史.RAEVSKIY ALEXAND	4	後期 火曜日 3講時 後期 火曜日 4講時	
心理学研究法	心理学研究法	2	荒井 崇史.河地 庸介. 阿部 恒之.坂井 信之. 辻本 昌弘.RAEVSKIY ALEXAND	3	前期 火曜日 3講時 前期 火曜日 4講時	
心理学各論 I	ウェルビーイングの心理学	2	WIWATTANAPANTUWO	6	後期 木曜日 3講時	
心理学各論 II	犯罪心理学:日本と台湾の比較	2	戴 伸峰	5	前期 木曜日 3講時	
実験心理学各論 (知覚・認知心理学)	知覚・認知心理学	2	河地 庸介	5	前期 水曜日 4講時	
実験心理学各論 (感情・人格心理学)	感情・人格心理学	2	阿部 恒之	5	前期 水曜日 1講時	
実験心理学各論 (神経・生理心理学)	神経・生理心理学	2	坂井 信之	6	後期 水曜日 3講時	
実験心理学各論 (心理学統計法)	心理調査概論	2	倉元 直樹	5	前期 月曜日 2講時	
社会心理学各論 (文化心理学)	文化心理学	2	辻本 昌弘	6	後期 金曜日 2講時	
社会心理学各論 (司法・犯罪心理学)	司法・犯罪心理学	2	荒井 崇史	5	前期 金曜日 3講時	
実験心理学演習 I	知覚・認知・感性科学の展開	2	河地 庸介	6	後期 水曜日 2講時	
実験心理学演習 II	感情の心理と生理	2	阿部 恒之	6	後期 水曜日 1講時	
実験心理学演習 III	神経・生理心理学の文献研究	2	坂井 信之	5	前期 水曜日 3講時	
実験心理学演習 IV	Fundamentals of Psychological Measurement	2	倉元 直樹	6	後期 月曜日 2講時	
社会心理学演習 I	犯罪・非行と心理学	2	荒井 崇史	6	後期 木曜日 2講時	
社会心理学演習 II	コミュニティと社会行動	2	辻本 昌弘	5	前期 金曜日 2講時	
心理学特殊実験 I	心理学特殊実験I	2	阿部 恒之.荒井 崇史. 大森 美香.河地 庸介. 坂井 信之.辻本 昌弘	5	前期 火曜日 3講時 前期 火曜日 4講時	

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
心理学特殊実験Ⅱ	心理学特殊実験Ⅱ	2	辻本 昌弘	6	後期 火曜日 3講時 後期 火曜日 4講時	

科目名：実験心理学概論（心理学概論）／ General Psychology (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LB31302, 科目ナンバリング：LHM-PSY206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学の基礎知識とその応用
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Experimental Psychology
3. 授業の目的と概要：実生活場面で見られる様々な場面を心理学の視点からみるとどのようにとらえられるのか、また心理学の知識を修得しておけば、実生活でどのように有利なのか、などについて学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class offers you to study psychology with psychological phenomena in your daily lives. The topics will be broad from "seeing ghosts" to "why we do not want to eat bugs". The approaches are mainly knowledge based on the experimental psychology.
5. 学習の到達目標：・心理学の基礎事項を学ぶ  
・実生活場面で「騙されない」ための基礎知識を修得する。  
・医療や産業の場面で生じる様々な問題の解決に心理学の知識が有効に働くことを理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Earning the basic knowledge of psychology  
Acquiring the knowledge that helps your well-being  
Understanding the role of psychology in our daily lives
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
以下は予定であり、進行状況によって複数回に渡るものや省略されるものもある。
  1. 心理テストと血液型性格検査(導入)
  2. 生まれか育ちか?-ヒトラーのクローンは作れるか?-(心理学研究法)
  3. 遺伝子と性格-タブラサと優生学- (生物学と心理学)
  4. マトリックスの世界観(感覚と知覚)
  5. 人生を紡ぐ記憶(学習と記憶)
  6. スタバのコーヒーはなぜおいしく感じるのか?(認知心理学)
  7. 子どもは世界をどう見ているか?(発達)
  8. 大人になるということ(アイデンティティ)
  9. 吊り橋を渡ると恋人ができる?(感情と情動)
  10. なぜ食べ過ぎてしまうのか?(動機づけ)
  11. 使いやすいモノとは?(人間工学)
  12. 「人は見た目が9割」は本当か?(社会心理学)
  13. ミラーニューロンと共感(コミュニケーション)
  14. なぜ騙されるのか?(ヒューリスティック)
  15. より幸せになるために(まとめ)なお、適宜実験・調査への協力を呼びかけるので、それに参加して実際の心理学研究を体験してもらおう。
8. 成績評価方法：  
筆記試験・レポート(70%)、実験や調査への参加・受講態度などの参加意欲(30%)
9. 教科書および参考書：  
心理学の視点 25 (ISBN 978-4-910603-04-9)
10. 授業時間外学習：Should post reports in every classes. The topics of the reports will be announced in the classes.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：実験心理学概論（心理学概論）／ General Psychology (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LB43401, 科目ナンバリング：LHM-PSY206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学概論

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Psychology

3. 授業の目的と概要：心理学は心の仕組み、働き方を実証的に調べていく学問領域である。とはいえ心は目に見えるわけでもなければ、聴くことも、触ることもできない。それにもかかわらず心理学が現在に至るまで発展してきたのは、先人らが巧妙に計画した実証的研究によって心を詳らかにしてきたからである。本講義では、心の諸相について実際の具体的な研究例を紹介しながら幅広く体系的に学習していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Psychology is the empirical research area to investigate the mechanisms and functions of the mind. However, we cannot see, hear or touch the mind directly. Nevertheless, psychology develops based on brilliant findings by well-planned research to titillate the invisible mind. This course provides many examples of psychological research for the many facets of the mind to help students deepen their understanding of psychology.

5. 学習の到達目標：具体的な研究例をもとに基本的な心の仕組み、働きを学び、近年様々なメディアで取りあげられている心理学に関する話題を理解・評価できる力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students learn the mechanisms and functions of the mind from the many empirical studies and then improve the ability to understand and evaluate psychological topics from the media.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業資料と授業情報については Classroom を使用して発信する。

内容および進捗は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. ガイダンス：(実験) 心理学とは
2. 心の学問の成り立ち 1
3. 心の学問の成り立ち 2
4. 世界を感じる心の基本特性（閾値・順応・恒常性など）
5. 感覚・知覚 1
6. 感覚・知覚 2
7. 感覚・知覚 3
8. 記憶・忘却とその障害
9. 学習
10. 問題解決・推論
11. 感情 1
12. 感情 2
13. パーソナリティ
14. 発達
15. まとめと試験

8. 成績評価方法：

試験もしくはレポート（60%）およびコメントシートの提出（40%）をもとに評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書：『心理学の視点 25』（東北大学文学部心理学研究室（編），国際文献社） ISBN 978-4-910603-04-9

10. 授業時間外学習：講義内で提示されるキーワードや重要研究について，論文・書籍・URL などを通して理解を深めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）／ Social, Group and Family Psychology (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB34102, 科目ナンバリング：LHM-PSY207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会・集団・家族心理学

2. Course Title (授業題目)：Social, Group and Family Psychology

3. 授業の目的と概要：2 者関係から社会全体までさまざまなレベルの集団や集合体を視野に入れて人間の社会性を論じる。授業では社会心理学の理論モデルや研究例を、日常の具体的現象に関連づけながら解説していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：An introduction to social psychological research and theory regarding interpersonal relations and group processes.

5. 学習の到達目標：社会、集団、家族に関する社会心理学の代表的な理論モデルと研究例を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand social psychological theories and research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 態度と行動
2. 社会的影響
3. 服従と抵抗
4. 集合行動①
5. 集合行動②
6. 相互依存関係
7. 社会的ジレンマ
8. 規範・信頼・家族
9. 集団のパフォーマンス
10. 集団の意思決定
11. 集団間関係
12. リーダーシップ
13. 文化と心
14. 社会的自己
15. まとめ

8. 成績評価方法：

毎回実施する小テスト (100%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業中に適宜、参考書を紹介する。

10. 授業時間外学習：各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえておこないます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておく必要があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

対面授業により実施します。履修希望者が教室定員を超過する場合には、他学部生の履修を制限します。学習の一環として心理学の実験・調査への参加を要望することがあります。

科目名：社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）／ Social, Group and Family Psychology (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LB45302, 科目ナンバリング：LHM-PSY207J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会・集団・家族心理学
2. Course Title (授業題目)：Social, Group and Family Psychology
3. 授業の目的と概要：本授業では、社会心理学における基礎的なトピックス（社会的認知、態度、対人関係・対人行動、集団的相互作用、家族の機能等）についての知識を深めることを目的とする。授業では、各トピックスの基礎知識及び最新の研究を講義形式で紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to deepen the knowledge of basic topics in social psychology (social cognition, attitudes, interpersonal relationships and interpersonal behaviors, group interactions, family functions, etc.). In class, basic knowledge of each topic and the modern research will be introduced in the form of lectures.
5. 学習の到達目標：社会的認知、態度、対人魅力、援助行動、攻撃行動、集団の影響、家族の機能等、本授業で取り上げるトピックスに関する社会心理学的理論を理解し、説明することができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course will enable students to understand and explain social psychological theories about topics covered in this class, such as social cognition, attitude, interpersonal attraction, helping behavior, aggressive behavior, group influence, and family f
7. 授業の内容・方法と進度予定：

【授業の実施形態】

この科目はリアルタイム遠隔授業を実施します。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

1. 全体ガイダンス：社会心理学の概説
  2. 対人認知の歪み
  3. 原因帰属
  4. 態度とは何か？
  5. 態度変容
  6. 説得的コミュニケーション
  7. ステレオタイプと偏見
  8. 対人関係の形成
  9. 対人関係の発展
  10. 言語的コミュニケーション
  11. 非言語的コミュニケーション
  12. 攻撃行動
  13. 援助行動と援助要請
  14. 家族の人間関係
  15. 本授業の総括と知識確認
8. 成績評価方法：  
最終試験／レポート 60%  
受講態度 40%（授業内課題 20%，その他 20%）  
※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。
9. 教科書および参考書：  
教科書は指定しない。ただし、参考書を講義中に適宜紹介する。

The textbook is not specified. However, reference books and literature will be introduced during the lecture.

10. 授業時間外学習：初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。

It is required to read through the reference materials introduced in the first class. In addition, each class will be based on the contents of the previous classes. Therefore, it is necessary to review the contents of the previous classes before each class.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**1 2. その他：なし**

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求められることがある。

As part of the course, students may be asked to participate in psychological experiments and surveys.

科目名：心理学実験／ Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時. 後期 火曜日 4 講時

Semester : 4 単位数 : 2

担当教員：阿部 恒之. 坂井 信之. 辻本 昌弘. 河地 庸介. 荒井 崇史. RAEVSKIY ALEXAND

コード：LB42306, 科目ナンバリング：LHM-PSY208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学基礎実験

2. Course Title (授業題目) : Basic Psychological Experiment

3. 授業の目的と概要：心理学では現象の解明のために、実験・調査・面接・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Psychologists use various empirical methods like experimental method, survey method, interview method, psychological test, and case-study method to understand and explain behavior. The fundamentals are the observation of behavior and data collection and analysis. In this course, the students practically acquire the knowledge and skills essential for psychological research (psychological experiments, in particular). The students are required to submit the report for each class.

5. 学習の到達目標：種々の心理学研究法の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The aim of this course is that students acquire the knowledge and skills essential for psychological research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報については Classroom を使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. オリエンテーション
2. 感情の測定 (ポリグラフィー)
3. 心理物理学的測定法
4. 幾何学的錯視
5. 一対比較法
6. 感覚の尺度化
7. 反応時間
8. ゲーム理論に基づく実験
9. 潜在的態度の測定
10. 脳機能の計測法 (NIRS)
11. 官能評価法とその応用
12. 心理学の応用 1 (裁判所)
13. 信号検出理論
14. 心理学の応用 2 (市場調査)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

Google Classroom にて指示する。

10. 授業時間外学習：毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

履修は原則として心理学専修の 2 年次学生に限る。

前期の心理学研究法と連続履修すること。 ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。



**科目名：心理学研究法／ Psychological Experiment (Experimentation)**

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：荒井 崇史. 河地 庸介. 阿部 恒之. 坂井 信之. 辻本 昌弘. RAEVSKIY ALEXAND

コード：LB32307, 科目ナンバリング：LHM-PSY209J, 使用言語：日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

1. 授業題目：心理学研究法

2. Course Title (授業題目)：Psychological Research Method

3. 授業の目的と概要：心理学では現象の解明のために、実験・調査・面接・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習テーマは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。なお、以下の授業計画は担当者の都合などによる変更の可能性がある。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Psychologists use various empirical methods like experimental method, survey method, interview method, psychological test, and case-study method to understand and explain behavior. The fundamentals are the observation of behavior and data collection and analysis. In this course, the students practically acquire the knowledge and skills essential for psychological research. The students are required to submit the report for each class.

5. 学習の到達目標：種々の心理学研究法の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students acquire the knowledge and skills essential for psychological research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. オリエンテーション
2. 研究倫理
3. 心理統計の基礎
4. 心理統計解析法
5. 文献検索・レポート作成法
6. 実験法 1 (基礎)
7. 実験法 2 (動物実験)
8. 質問紙法 (作成と実施)
9. 観察法・フィールドワーク
10. 面接法
11. 質問紙法 (実施後の処理)
12. 心理検査法
13. 心理統計解析実習
14. コンピュータによる刺激制御法
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

Google Classroomにて指示する。

10. 授業時間外学習：毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。

後期の心理学実験と連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

科目名：心理学各論 I / Psychology (Special Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：WIWATTANAPANTUWO

コード：LB64301, 科目ナンバリング：LHM-PSY326J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ウェルビーイングの心理学

2. Course Title (授業題目)：The Psychology of Well-being

3. 授業の目的と概要：1946 年の世界保健機関 (WHO) 憲章の草案の中で、「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態 (well-being) であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と定義されている (厚生労働省)。本講義では、「ウェルビーイング」の概念を紹介し、様々な観点を紹介する。講義の後半は自然災害や感染症が広まった「非常時」のウェルビーイング研究について論ずる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The constitution of the World Health Organization (WHO) in 1946 rose the term of 'Health' as a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity. This course will introduce you to the world of well-being as it has been discussed in the various viewpoints. The second half of this course may include the study of 'well-being during the mass crisis' such as, natural disaster and pandemic diseases as a part of my current research studies.

5. 学習の到達目標：1. 受講者は、ウェルビーイングの定義、測定方法及び、他の心理学概念との関連を説明することができる。

2. 受講者は、自然災害やコロナ感染症などの「非常時」と「平常時」のウェルビーイングの変化を見分けることができる。

3. 受講者は、ウェルビーイングの概要を考察し、現在注目されている問題との関連を把握できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students can explain the definition of well-being, the way to measure well-being, and its relationship with other psychological factors.

2. Students can identify the change of well-being between the 'usual time' and 'unusual time' such as, natural di

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この講義は Zoom を介してタイと日本をつなぐオンライン講義である。授業に関する各種情報は文学部・文学研究科の HP 等でお知らせするので、各自確認いただきたい。

1. ウェルビーイングの定義とその使い方

2. ウェルビーイングの種類：ヘドニック & ユダイモニック

3. ポジティブ心理学および心理的介入

4. 文化、多様性、およびウェルビーイング

5. ウェルビーイングと持続可能性

6. ウェルビーイングと他の心理学概念の関連性 (1)

7. ウェルビーイングと他の心理学概念の関連性 (2)

8. 災害・心理学・及びウェルビーイング

9. 災害中およびその後の人間の感情と反応：英雄のおよびハネムーンフェーズ

10. 災害中およびその後の人間の感情と反応：幻滅と再構築フェーズ

11. 災害中およびその後の人間の感情と反応：噂、パニック、および犯罪

12. 災害時の群衆および集団行動

13. 災害時の心理的サポート活動

14. 災害とメンタルヘルス

15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 80%

受講態度 20% (授業内での議論への参加度)

※やむを得ない事情 (忌引き・病気等) で欠席した場合には、その根拠資料 (診断書等) を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

なし

10. 授業時間外学習：各回の授業内容について、事前に予習を行い、その内容を把握しておくこと。また、その内容に関する議論に耐えうるだけの知識を身につけておくこと。事前の予習は、教科書や配布する資料等を参考にするとともに、各回の授業内容と関連する文献を読んでおくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：心理学各論Ⅱ／ Psychology (Special Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

semester：5 単位数：2

担当教員：戴 伸峰

コード：LB54301, 科目ナンバリング：LHM-PSY327J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：犯罪心理学：日本と台湾の比較

2. Course Title (授業題目)：Criminal Psychology: the Comparison between Japan and Taiwan

3. 授業の目的と概要：犯罪心理学は犯罪および犯罪者について研究する心理学の一分野である。犯行当時の心理状態、犯罪者の性格、罪を犯す発達の経緯などをはじめ、証言の心理などを研究する裁判心理学や、犯罪者の矯正・更生・犯罪予防を目的とする矯正心理学を含むことである。本講義では、犯罪心理学の紹介をはじめに、心理学の観点から犯罪現象や事例を分析することから成る。また、担任講師は台湾籍であり、日本と台湾の犯罪心理学の現状を紹介し、それぞれの特徴を比較することは講義の目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Criminal Psychology is the empirical research field of criminal behaviors, law system, rehabilitation, imprisonment, judgement, and so on. This course introduces criminal psychology and analyze criminal cases from the psychological point of view. Also according to the teacher of this course is from Taiwan, so we introduce the comparison of criminal psychology between Japan and Taiwan.

5. 学習の到達目標：犯罪心理学の観点から、犯罪事情や事例を分析し、実証的な観点から犯罪を理解する力を育成することである。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main goal of this course is to develop students' abilities and knowledge of criminal psychology. And by using the empirical criminal cases of Japan and Taiwan, we develop students' comparison view point of different culture issues.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は基本的には Google Meet によるオンライン遠隔授業中心のハイブリッド方式で実施する。なお、授業資料と授業情報については Classroom を使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. 現代日本の犯罪動向
2. 現代台湾の犯罪動向
3. 日本統治時代が台湾の犯罪や法律に及ぼす影響
4. 犯罪原因の科学的研究 1
5. 犯罪原因の科学的研究 2
6. 犯罪の社会的要因 1
7. 犯罪の社会的要因 2
8. 犯罪の社会的要因 3
9. 犯罪の個人的要因 1
10. 犯罪の個人的要因 2
11. 犯罪の発達の要因 1
12. 犯罪の発達の要因 2
13. 犯罪原因の統合的理解 1
14. 犯罪原因の統合的理解 2
15. まとめとレポート提出

8. 成績評価方法：

犯罪心理学（事例の分析、実証研究の結果、講義に関する心得など）に関する期末レポート（60%）、出席（40%）

9. 教科書および参考書：

参考用の教科書：犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるか 大淵憲一 培風館

10. 授業時間外学習：犯罪事情や事例に積極的に興味を持つこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名:実験心理学各論(知覚・認知心理学) / Psychology of Perception and Cognition (Special Lecture)

曜日・講時:前期 水曜日 4講時

セメスター:5 単位数:2

担当教員:河地 庸介

コード:LB53402, 科目ナンバリング:LHM-PSY312J, 使用言語:日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名:】

1. 授業題目:知覚・認知心理学

2. Course Title (授業題目):Perceptual and Cognitive Psychology

3. 授業の目的と概要:人間は、意識的かどうかにかかわらず、外界の事物や自分や他者の状態等の多種多様な情報を認識し、行動を選択し、外界や他者に働きかけながら生活している。本講義では、このような情報のやりとりを支える感覚・知覚・注意・記憶・思考といった「こころ」の様々な機能を幅広く理解し、さらにはそれらの機能を実現する脳内メカニズムを理解することを目指す。適宜、錯覚等のデモンストレーションや心理学実験の実体験に加えて、最新の脳科学的知見や話題を織り交ぜながら講義を進めていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要):We consciously or unconsciously perceive various information from the internal and external environments, choose an adaptive behavior based on perceived information, and interact with the environments. This course aims at comprehensively understanding the adaptive mind such as sensation, perception, and cognition. This course will include many demonstrations of psychological phenomena and experiments to help students deepen their understanding of the adaptive mind.

5. 学習の到達目標:日常生活の中で体験する自分自身や他者の「こころ」にかかわる現象を認知心理学の立場から考察し、近年様々なメディアで取りあげられている心理学や脳科学に関する話題を理解・評価できる力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標):Students improve the ability to analyze psychological phenomena from the perspective of cognitive psychology and to understand and evaluate psychological topics from the media.

7. 授業の内容・方法と進度予定:

授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. ガイダンス
2. 知覚・認知心理学で用いる心の測り方
3. 世界を感じるための心の基本特性
4. 初期視覚情報処理1 (網膜・受容野)
5. 初期視覚情報処理2 (コントラスト・空間周波数処理)
6. 初期視覚情報処理3 (色・運動・奥行き知覚)
7. 中期視覚情報処理 (図地の知覚, 群化)
8. 高次視覚情報処理 (物体・顔・シーンの知覚)
9. 聴覚・触覚情報処理
10. 多感覚統合:複数感覚の情報をいかにしてまとめ上げるのか
11. 注意:注意とは何か, 如何にして測定するのか
12. 様々な注意:注意はどこに向けられるのか
13. 心的イメージ
14. 意思決定
15. まとめ

8. 成績評価方法:

試験もしくはレポート(60%)およびコメントシートの提出(40%)をもとに評価する。

9. 教科書および参考書:

必要に応じてPDF ファイルを配布する。

10. 授業時間外学習:講義内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URLなどを通して理解を深めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他:なし

科目名：実験心理学各論（感情・人格心理学）／ Psychology of Emotion and Personality (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LB53101, 科目ナンバリング：LHM-PSY313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：感情・人格心理学

2. Course Title (授業題目)：Psychology of Emotion and Personality

3. 授業の目的と概要：具体的な研究事例に触れながら，感情と人格について総合的に学ぶ。

なお，本科目は公認心理師必修科目「感情・人格心理学」に対応している。

キーワード： ジェームズ-ランゲ説・キャノン-バード説・ストレス・交感神経-副腎髄質系・HPA 系・自尊心・自意識

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers many topics of actual researches on psychology to help students deepen their understanding of emotion and personality.

This course is a prerequisite for the students who plan to take the exam to become a licensed psychologist.

Key words: James-Lange theory, Cannon-Bard theory, stress, sympathoadrenal axis, HPA axis, self-esteem, self consciousness

5. 学習の到達目標：感情と人格について以下のことを学び，日常生活における機能と影響を理解する。

①感情に関する理論及び感情喚起の機序

②感情が行動に及ぼす影響

③人格の概念及び形成過程

④人格の類型、特性 等

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In this course, students will learn about important topics of emotion and personality as follows and understand their function/effect on daily life.

1) Theory and mechanisms of emotion

2) The effects of emotion on behavior

3) The concept and formation

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面で実施する。但し，オンデマンドビデオなどのリモート素材も活用する。

資料提供や小レポートの提出，連絡などはClassroomを通じて行う。Classroomのクラスコードは教務係から通知されるので，それに基づいて必ず登録すること。

主な内容は以下の通り。但し，講義順序は，別途指示するテキストの内容に沿い，講読を中心に進め，投影で要点を押さえる。詳細はガイダンスで伝える。

① ガイダンス，感情の基礎

② 感情の生物学的基盤

③ 感情の理論 1 古典的理論

④ 感情の理論 2 基本的感情説と次元説

⑤ 感情の理論 3 身体性を巡る理論の整理

⑥ 感情と行動

⑦ 感情の測定

⑧ 援助行動と共感性

⑨ 感情の制御・調整

⑩ 人格の概念

⑪ 知的機能の個人差

⑫ 人格の形成と変容

⑬ 人格の理論

⑭ 自尊心と自意識

⑮ 人格の障害

8. 成績評価方法：

期末レポート\* (20%)，毎回の小レポート\* (60%)，出席\*\*と討議への参加 (20%)。

上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

\*期末レポートと毎回の小レポートについては，もれなく提出した者のみ単位認定対象とする。

\*\*2/3 以上出席した者のみ単位認定対象とする。

9. 教科書および参考書：

購入不要。授業中に指示する。

1 0. **授業時間外学習**：毎回小レポートを課すので、それを通じて復習すること。

1 1. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、**実務・実践的授業**であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. **その他**：なし

小レポート等，全ての提出物は受講生全員で共有して，互いに参考にする場合がある。これを前提に作成すること。  
授業でコンピュータを使用することがあるので，持参すること。

科目名：実験心理学各論（神経・生理心理学）／ Neuroscience and Physiological Psychology(Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LB63302, 科目ナンバリング：LHM-PSY314J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：神経・生理心理学
2. Course Title (授業題目)：Neuroscience and Physiological Psychology
3. 授業の目的と概要：この授業では、人間の「脳神経系の構造および機能」、「記憶、感情等の生理学的反応の機序」および「高次脳機能障害」のそれぞれ概要について理解することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to help students with their understanding about human neuron systems and about neural mechanisms underlying human cognitive functions such as learning, memory and emotion.
5. 学習の到達目標：ヒトの認知機能がどのような仕組みで支えられているかについて理解することができるようになる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understanding how human cognitive functions evoked by brains.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：  
授業は主に教員がスライドを使いながら解説する形式である。進捗の予定は以下の通り。  
  
第1回 日常生活を支える脳の仕組み  
第2回 脳と神経の成り立ち：脳と自律神経系を中心に  
第3回 神経系の情報伝達とその柔軟性：シナプスと神経伝達物質  
第4回 大脳皮質の機能局在：前方は運動、後方は知覚  
第5回 脳を測る：電気信号と化学信号  
第6回 経験に基づく脳の変化  
第7回 人の知情意を司る脳  
第8回 ものを見るのは目か脳か？  
第9回 手を動かしているのは筋肉か脳か？  
第10回 記憶は脳のどこにどのような形で蓄えられるか？  
第11回 怒りを感じるのは脳のどこか？  
第12回 お腹が空く理由は？  
第13回 脳が変わると行動や心はどのように変わるのか？  
第14回 記憶を失った青年の話  
第15回 心の病気＝脳の病気
8. 成績評価方法：  
定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）
9. 教科書および参考書：  
授業中に適宜資料を配布・紹介する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業前後に小レポートを課するので、授業内容を予習・復習しながら、そのレポートに回答する必要がある。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし  
この授業は原則として対面にて実施する。詳細はClassroomで通知する予定である。  
なお、復習と次週の予習のため、小レポートへの回答が必須であり、小レポートへの回答は90分程度必要となることを予め理解しておくこと。

科目名：実験心理学各論（心理学統計法）／ Statistics on Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LB51204, 科目ナンバリング：LHM-PSY315J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理調査概論

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Psychological Research

3. 授業の目的と概要：主として計量的な心理学の方法論として幅広く使われている質問紙法や検査法，記述式のテスト，小論文，面接試験等，主観的な評価を伴う測定法を用いた尺度を開発・自作する際の技術に関わる理論的背景について学ぶ。同時に，心理検査等，心理学的測定に関わる結果を評価するための理論について，その基礎的な概念を学ぶ。信頼性，妥当性といった概念の基礎となる古典的テスト理論とその発展形である一般可能性理論，さらに探索的因子分析を中心に測定法の基礎を学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course mainly target to learn about the theoretical background related to psychological measurement such as questionnaires, psychological testing, open-ended questions, essay, interview and so on. The measurement theory is also useful for evaluating the results obtained by those techniques. We approach Classical Test Theory, that is the basis of commonly used concept 'validity' and 'reliability'. After that, we might try Generalized Theory which is the evolutionary theory of CTT or the basis of Exploratory Factor Analysis.

5. 学習の到達目標：調査法の背景にある測定理論の基礎的な理解と論文によく用いられる指標に関するリテラシー。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Basic understanding of the measurement theory behind the survey method and literacy on indicators often used in the thesis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態： 3 対面授業（半分以上）とオンデマンド型オンライン授業の併用

1. イントロダクション（テーマ、および、教科書の紹介）（1コマ）

2. 古典的テスト理論の基礎（測定の定義、信頼性と妥当性、測定誤差、妥当性の諸概念、妥当性と信頼性、信頼性のモデル、共分散、標準化、相関係数、信頼性係数の定義、平行測定、信頼性係数の意味、並行測定と信頼性係数の推定、妥当性係数、信頼性と妥当性の関係、スピアマン＝ブラウンの公式）（4～7コマ）

3. 信頼性の評価（再テスト法、平行テスト法、折半法、評定法による信頼性向上の原理、スピアマン＝ブラウンの公式の一般化、 $\alpha$  信頼性係数とその意味、内的整合性と測定誤差の仮定、KR 20、内容的妥当性と測定モデル、信頼性と妥当性のジレンマ、一般化可能性理論）（4～6コマ）

4. 探索的因子分析（因子分析の基礎概念、単純構造と尺度の分類、因子軸の回転、因子分析モデルと古典的テスト理論、因子負荷量、因子得点、相関係数の構造、共通性と信頼性係数、主成分分析と因子分析、固有値と因子、探索的因子分析の手順）（3～5コマ）

5. 心理尺度作成の実際（心理学的構成概念の構築、下位概念の整理、項目の作成、ワーディング、データ収集、テスト法と調査法、項目分析の方法、通過率とIT 相関）（1～2コマ）

6. 期末考査（1コマ）

8. 成績評価方法：

出席[40%程度]・討論参加[20%程度]・期末試験[40%程度]

毎回対面授業を予定している。どのような理由でも欠けは認めない。ただし、やむを得ない理由で出席できない場合には、求めに応じて授業動画を提供する場合がある。その視聴をもって当該授業への出席と認める。

9. 教科書および参考書：

(1) E. G. カーマイン・R. A. ツェラー著（1983）『テストの信頼性と妥当性』，朝倉書店

(2) 海保博之編著（1984）「心理・教育データの解析法10講 基礎編」，福村出版

10. 授業時間外学習：授業時間外に予習、復習を奨励する。小テストを行う場合がある。受講者の理解度に応じて指定外の参考書を利用する場合がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オンデマンドの授業動画のクオリティは保証しない。

The quality of on-demand class videos is not guaranteed.



科目名：社会心理学各論（文化心理学）／ Cultural Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB65203, 科目ナンバリング：LHM-PSY316J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化心理学

2. Course Title (授業題目)：Cultural Psychology

3. 授業の目的と概要：文化により人間の行動や心理にどのような違いがみられるのだろうか。文化による違いはなぜ生じるのだろうか。異なる文化に接触したとき人間に何が生じるのだろうか。これらの問いを念頭に、この授業では、文化を研究主題にして成果をあげている心理学の理論と研究例を解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will learn about diversity of cultures, cultural evolution and acculturation processes.

5. 学習の到達目標：文化心理学の代表的な理論モデルと具体的な研究例を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand theories and research of cultural psychology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文化心理学とは
2. 生まれか育ちか
3. 心と文化
4. 日本文化論
5. 東洋と西洋の比較
6. 文化と自己
7. 進化と適応
8. 生態環境と文化
9. 適応論による文化研究
10. 移民の異文化体験
11. 文化変容の理論
12. 国民国家と文化
13. 多文化主義
14. 異文化の理解
15. まとめ

8. 成績評価方法：

小テスト (50%), 期末レポート (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業中に適宜、参考書を紹介する。

10. 授業時間外学習：各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえておこないます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておく必要があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

学習の一環として心理学の実験・調査への参加を要望することがある。

科目名：社会心理学各論（司法・犯罪心理学）／ Forensic and Criminal Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LB55302, 科目ナンバリング：LHM-PSY317J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：司法・犯罪心理学

2. Course Title (授業題目)：Forensic and Criminal Psychology

3. 授業の目的と概要：本授業では、犯罪心理学の学問的位置づけ、刑事司法制度や犯罪統計など犯罪心理学を学ぶ上で基礎的な知識、犯罪原因に関する基礎理論、そして司法・犯罪分野における心理学的アセスメントや援助についての知識を深めることを目的とする。授業では、各トピックスの基礎知識及び最新の研究を講義形式で説明する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, the purpose is to deepen the knowledge of the academic position of criminal psychology, basic knowledge on criminal psychology such as criminal justice system and criminal statistics, basic theory on the cause of crime, and psychological assessment and support in the field of justice and crime. In the course, the basic knowledge of each topic and the modern research will be explained in a lecture format.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、以下の3点である。

- (1) 司法・犯罪分野の制度や法律、各機関における活動や活動倫理を理解する。
- (2) 犯罪原因論や犯罪機会論の視点から犯罪や非行の原因を理解する。
- (3) 司法・犯罪分野における心理学的アセスメントや心理学的援助を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to...

1. Understand the systems and laws in the field of criminal justice, and the activities and ethics of each organization.
2. Understand the criminological theory from the perspectives of cause of crime and opportunity of crime.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業もしくはリアルタイム型オンライン授業（リアルタイム型遠隔授業）を行います。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

授業内容とスケジュールは以下の通りですが、進度によって変更する場合があります。

1. 全体ガイダンス：犯罪と犯罪心理学
2. 司法・犯罪に関連する法律
3. 成人における刑事司法制度
4. 少年非行と司法システム
5. 犯罪統計
6. 犯罪・非行の生物学的原因 (1)
7. 犯罪・非行の生物学的原因 (2)
8. 犯罪・非行の心理学的原因 (1)
9. 犯罪・非行の心理学的原因 (2)
10. 犯罪・非行の社会学的原因 (1)
11. 犯罪・非行の社会学的原因 (2)
12. 環境と犯罪に関する理論
13. 犯罪予防
14. 犯罪・非行の心理学的アセスメントと支援
15. 本授業の総括と知識確認

8. 成績評価方法：

期末試験・レポート 60%

受講態度 40% (授業内課題 20%, その他 20%)

※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ただし、参考書を講義中に適宜紹介する。

The textbook is not specified. However, reference books and literature will be introduced during the lecture.

10. 授業時間外学習：初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。

It is required to read through the reference materials introduced in the first class. In addition, each class will

be based on the contents of the previous classes. Therefore, it is necessary to review the contents of the previous classes before each class.

授業時間外学習として、以下の書籍を精読することをお勧めする。

As learning outside of class, it is recommended to read the following books.

森丈弓 他 (2021) 司法・犯罪心理学 サイエンス社

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**1 2. その他：なし**

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求められることがある。

As part of the course, students may be asked to participate in psychological experiments and surveys.

科目名：実験心理学演習 I / Experimental Psychology (Seminar) I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LB63211, 科目ナンバリング：LHM-PSY318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：知覚・認知・感性科学の展開
2. Course Title (授業題目) : Development of Perception, Cognition, and Kansei Science
3. 授業の目的と概要：本演習では、実験心理学研究論文を取り上げ、①研究背景から研究仮説の導出、②仮説検証のための研究方法の選択、③適切なデータ処理、④研究仮説と結果との違いに基づいて述べられる考察の理解、に着目して話題提供・討論を行う。さらには、⑤取り上げた研究の新規性についても討論を行う。演習で扱うテーマは知覚・認知・感性が基本となる。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, we will read recent papers from experimental psychology and discuss them with the focus as follows: 1) the way to form a research hypothesis, 2) the selection of research methods to test a hypothesis, 3) sound data processing and analysis, 4) discussion based on the difference between hypothesis and results, 5) the novelty of the topic. Especially, we will mainly explore the topic of perception, cognition and Kansei.
5. 学習の到達目標：①自分自身の問題意識や関心に基づいて、研究論文を選び出し、必要な情報を読み取ることができることを目指す。  
②仮説検証方法の妥当性を評価できるようになること。  
③先行研究との比較の中で、当該研究の意義・新規性を評価できるようになること。  
④新たな研究課題を見つけることができるようになること。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : The aims of this course are to help students 1) select a research topic and paper based on their interests and read the information they need, 2) evaluate the validity of hypothesis testing methods, 3) evaluate the novelty and significance of the research
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
この科目は対面での授業を基本とする。ただし、状況に応じてオンライン授業を行う。  
なお、授業資料と授業情報については Classroom を使用して発信する。  
  
内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。
  1. ガイダンス (演習の進め方)
  2. 話題提供・解説・討論
  3. 話題提供・解説・討論
  4. 話題提供・解説・討論
  5. 話題提供・解説・討論
  6. 話題提供・解説・討論
  7. 話題提供・解説・討論
  8. 話題提供・解説・討論
  9. 話題提供・解説・討論
  10. 話題提供・解説・討論
  11. 話題提供・解説・討論
  12. 話題提供・解説・討論
  13. 話題提供・解説・討論
  14. 話題提供・解説・討論
  15. 話題提供・解説・討論
8. 成績評価方法：  
出席(20%)、発表(40%)、討論への参加(40%)をもとに評価する。
9. 教科書および参考書：  
授業で用いる論文について指示する。もしくは PDF ファイルの配布を行う。
10. 授業時間外学習：授業内で扱う研究論文を通読しておく必要がある。適宜、授業内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URL などを通して理解を深めることが望ましい。
  11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
  12. その他：なし

科目名：実験心理学演習Ⅱ／ Experimental Psychology (Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LB63101, 科目ナンバリング：LHM-PSY319J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：感情の心理と生理
2. Course Title (授業題目) : Emotion science on mind and body
3. 授業の目的と概要：この授業では、感情心理学・生理心理学に関する論文を読み、その内容を発表し、全員で議論する。講読する論文は、基本感情、CAD 三幅対仮説、道徳基盤理論などであり、順次関連付けながら進行する。そして、差別問題に感情がどのように関わっているかを考え、基礎研究と社会問題がいかに密接なつながりを持っているかを理解する。

キーワード：基本感情、嫌悪、CAD 三幅対仮説、道徳基盤理論、差別、行動免疫システム

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this class, every student will make presentations on articles of emotion/psychophysiology, and all students will discuss it. The articles are on basic emotions, CAD triad hypothesis, moral foundations theory, and so on. The discrimination problem will be discussed referring relationship among these articles.

Key words: basic emotions, disgust, CAD triad hypothesis, moral foundations theory, discrimination, behavioral immune system

5. 学習の到達目標：アクティブラーニングを通じて、心と体、さらには社会と関わる心理学について定見を得る。また、人前で発表することに慣れるとともに、発表スキルを磨く。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : This class is designed to help students understand the wide range of psychology on mind/bod/society and to improve presentation skill through active learning.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
この授業は対面で実施する。但し、オンデマンドビデオなどのリモート素材も活用する。資料提供や小レポートの提出、連絡などは Classroom を通じて行う。Classroom のクラスコードは教務係から通知されるので、それに基づいて必ず登録すること。以下のように講義を進めるが、実情に合わせて変更する。変更したスケジュールは、都度配布する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 主要テーマ 1：基本感情
- 3 回目 感情心理学の補足・展開 1
- 4 回目 発表 1：基本感情
- 5 回目 主要テーマ 2：CAD 三幅対仮説
- 6 回目 感情心理学の補足・展開 2
- 7 回目 発表 2：CAD 三幅対仮説
- 8 回目 主要テーマ 3：道徳基盤理論
- 9 回目 感情心理学の補足・展開 3
- 10 回目 発表 3：道徳基盤理論
- 11 回目 主要テーマ 4：コロナ問題
- 12 回目 感情心理学の補足・展開 4
- 13 回目 感情心理学の補足・展開 5
- 14 回目 発表 4：コロナ問題
- 15 回目 発表 5：コロナ問題

8. 成績評価方法：  
毎時間の小レポート (60%)、期末レポート\* (10%)、発表資料の提出と発表\* (20%)、出席\*\*と討議への参加 (10%)  
上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

\*期末レポートと発表資料の提出と発表については、もれなく提出・実施した者のみ単位認定対象とする。

\*\*2/3 以上出席した者のみ単位認定対象とする。

9. 教科書および参考書：

資料は Classroom 経由で提示する。大学アドレスへのメールを頻繁に確認すること。

10. 授業時間外学習：論文(和・英)を読み、要約し、プレゼン資料をまとめ、授業中に発表してもらうので、授業準備には相応の手間がかかる。しっかりと準備して授業に臨んで欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

発表資料等、全ての提出物は受講生全員で共有して、互いに参考にする場合がある。これを前提に作成すること。

発表は自分自身のコンピュータを使って、パワーポイントの資料を投影する。  
なお、講義室のプロジェクタはVGA端子(D-sub15pin)もしくはHDMIなので、変換端子を用意すること。  
発表以外の時もコンピュータ持参のこと。

科目名：実験心理学演習Ⅲ／ Experimental Psychology (Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LB53310, 科目ナンバリング：LHM-PSY320J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：神経・生理心理学の文献研究
2. Course Title (授業題目)：Seminars on Neuropsychology and Biological Psychology
3. 授業の目的と概要：この授業では最初に与えられた文献（専門書）を輪読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students are required to read and summarize a chapter of a textbook (about Biological Psychology), and then to have a presentation in the class. The other students are required to attend discussions based on the presentation.
5. 学習の到達目標：① 心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。  
② 自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. To know how to use and apply their psychological knowledge to solve everyday problems.  
2. To have a skill to present their ideas to the other students, and to discuss with them.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
最初に与えられた英語の専門書 (Brain and Behavior Revisiting the classic studies) を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。  
第1回 導入 (講義の進め方／担当決め)  
第2回 プレゼンテーションの方法  
第3回 文献講読その1  
第4回 文献講読その2  
第5回 文献講読その3  
第6回 文献講読その4  
第7回 文献講読その5  
第8回 文献講読その6  
第9回 文献講読その7  
第10回 文献講読その8  
第11回 文献紹介その1  
第12回 文献紹介その2  
第13回 文献紹介その3  
第14回 文献紹介その4  
第15回 文献紹介その5
8. 成績評価方法：  
( ) 筆記試験・(○) リポート[40%]・( ) 出席  
(○) その他 (発表態度) [60%]
9. 教科書および参考書：  
授業時に指示する。
10. 授業時間外学習：予め割り当てられた章について予習をして、パワーポイントを用いて発表できるように準備しておく必要がある。また、発表時の質疑等に基づいて、パワーポイントを改訂し、提出する必要がある。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし  
何か質問があれば、電子メール (nob\_sakai@tohoku.ac.jp) で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。  
この授業は原則として対面にて実施する。詳細はClassroomで通知する予定である。

科目名：実験心理学演習Ⅳ／ Experimental Psychology (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LB61205, 科目ナンバリング：LHM-PSY321J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Fundamentals of Psychological Measurement

2. Course Title (授業題目)：Fundamentals of Psychological Measurement

3. 授業の目的と概要：量的方法論による心理学研究の方法論的基礎となる測定法の理論について基礎から学ぶ。古典的テスト理論 (Classical Test Theory) と項目反応理論 (Item Response Theory) を対比しながら、理念的な理解を深める。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交ぜる可能性も考慮する。時折、教科書の例題を基にレポートを課す可能性がある。英語論文の理解と執筆のために標準的な英語のテキストを選定しているが、受講者の希望によっては変更も可とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class is aimed to learn the fundamentals the theory of measurement method which is the methodological basis of psychology research by quantitative methodology. The lecturer expect students' understanding will be deepened by comparing classical test theory with Item Response Theory. Although it is based on an orthodox seminar style, it is also possible to add an advanced content or a theme of the studies currently being tackled, depending on the number and attendees of students. There is also the possibility of requesting a report based on exercises in the textbook. The lecturer chose a standard English textbook for understanding and writing English papers, but we can change it depending on the student's request.

5. 学習の到達目標：心理学的測定論に基づく手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To be able to conceive data collection designs for actually conducting research on their own using methods based on psychological measurement theory.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

授業の実施形態：対面授業のみ

1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) (1コマ)

2. Classical Test Theory (True Scores and Error Variances, Reliability Coefficient and Estimation, Formulas for Estimating a Reliability Coefficient, Factors Affecting the Reliability Coefficient, Estimating the Standard Error of Measurement, Reliability of Difference Scores) (6～10コマ)

3. Item Response Theory (Basic Concepts and Models, Ability and Item Parameter Estimation, Assessments of Model-Data Fit, The Ability Scale and Information Functions, Item Construction and Bias, Equating, CAT) (6～10コマ)  
(参加者の履修経験と準備状況によって、前半、後半のいずれに重点を置くかを決定する)

4. まとめ (1コマ)

8. 成績評価方法：

出席状況 [40%程度]・小テスト [20%程度]・発表及び討論参加 [60%程度]

9. 教科書および参考書：

(1) Traub, R. E. (1994). Reliability for the Social Sciences: Theory and Applications, Sage, Thousand Oaks, CA.

(2) Hambleton, R. K., Swaminathan, H. and Rogers, H. J. (1991). Fundamentals of Item Response Theory. Sage, Newbury Park, CA.

10. 授業時間外学習：担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業そのものは日本語で行うことを原則とする。



科目名：社会心理学演習 I / Social Psychology (Seminar) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LB64210, 科目ナンバリング：LHM-PSY322J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：犯罪・非行と心理学

2. Course Title (授業題目)：Psychology of Crime and Delinquency

3. 授業の目的と概要：本授業の目的は、実証的な手法で実施された社会心理学並びに犯罪心理学の英文文献を多読することを通して、犯罪や非行に関連する心理学的な知識を深めることである。受講生は、事前に指定された英文文献を読むだけでなく、関連する資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to deepen the psychological knowledge related to crime and delinquency through extensive reading of literature on social psychology and criminal psychology conducted using empirical methods. Students not only read designated literatures, but also prepare related materials, and present and discuss in class.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、以下の 2 点である。

- (1) 社会心理学並びに犯罪心理学の最新の研究に触れることで、犯罪・非行に関する心理学理論や知見への理解を深める。
- (2) 心理学の英文文献を読解する力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to acquire following points.

1. By touching on the modern research in social psychology and criminal psychology, students will deepen their understanding of psychological theories and findings on crime and delinquency.

2. Student

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【授業の実施形態】

この科目は対面で授業を実施します。ただし、社会的状況によってやむを得ない場合にはオンラインで実施することもあります。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

1. 全体ガイダンス：授業の進め方の確認と担当の決定
2. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 1
3. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 2
4. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 3
5. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 4
6. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 5
7. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 6
8. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 7
9. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 8
10. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 9
11. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 10
12. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 11
13. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 12
14. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 13
15. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 14

8. 成績評価方法：

発表・討論参加 (50%)

授業時間外学習・準備 (40%)

レポート (10%)

※やむを得ない事情 (忌引き・病気等) で欠席した場合には、その根拠資料 (診断書等) を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。発表論文は、以下の雑誌に過去 5 年以内に収録された論文に限る。

Journal of Personality and Social Psychology

Journal of Applied Social Psychology

Journal of Social Psychology

なお、発表論文については、事前に担当教員にメールにて送付すること。他受講生の発表論文は ISTU にて事前に受講生に配布するので、各自印刷等を行うこと。

The textbook is not s

10. 授業時間外学習：事前学習として、パワーポイントなどを使って、担当論文を他の履修者に説明できるように準備してお

くこと。発表の担当者ではない授業の前にも、討議に積極的に参加するために、当該範囲の予習を行うこと。事後学習として、発表資料の改定を求める。

In order to prepare for the lecture, students should be able to explain their paper to other students using PowerPoint etc. In order to participate actively in the discussion, students are required to prepare for the class in which they will not be in charge of the presentation. Revision of the presentation materials is required as a reviewing.

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**1 2. その他：なし**

履修状況によって、授業形態や発表回数が変更になることがある。初回の授業で授業形態や発表担当を調整するので、履修を希望する方は必ず出席すること。なお、学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

The class format and number of presentations may be changed depending on the number of students. We will adjust the class format and the number o

科目名：社会心理学演習Ⅱ／ Social Psychology (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB55209, 科目ナンバリング：LHM-PSY323J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コミュニティと社会行動

2. Course Title (授業題目)：Community and Social Behavior

3. 授業の目的と概要：この授業では、コミュニティ・文化・社会行動などに関する社会心理学の論文を読解する。それぞれの論文でとりあげられている主要な理論を理解するとともに、実際に研究を進める方法論を学ぶことが目的である。毎回、受講生は、課題論文を読み、レポートを提出する。授業では課題論文の解説をおこなうとともに、レポートの内容についてフィードバックをおこなう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students explore articles about community and culture. In every class, students are required to submit short reports.

5. 学習の到達目標：1. コミュニティ・文化・社会行動にかんする社会心理学関連の理論と研究の方法論を学ぶ。

2. 論文や文献を調べて的確に理解する力を涵養する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students learn about theories and methods of research regarding community and culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業とオンライン授業（オンデマンド型）を併用して実施する。

1. 導入：授業の進め方の説明

2. 地域社会と犯罪

3. 文化と発達

4. 移動とアイデンティティ

5. 移動と適応行動

6. 互助集団

7. 抵抗と服従

8. 文化と問題対処行動

9. 社会化過程

10. コミュニティの文化①

11. コミュニティの文化②

12. コミュニティの文化③

13. アクション・リサーチ

14. 事例研究法

15. まとめ

8. 成績評価方法：

毎回提出する小レポートにより評価（100%）

9. 教科書および参考書：

とりあげる論文を授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：とりあげる論文を精密に読解し、レポートにまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

1回目の授業で、対面授業とオンライン授業（オンデマンド型）の併用について説明します。上に示した授業計画はおおよその予定であり、授業進行に応じて調整をすることがあります。

科目名：心理学特殊実験Ⅰ／ Individual Instruction on Psychological Study I

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：阿部 恒之. 荒井 崇史. 大森 美香. 河地 庸介. 坂井 信之. 辻本 昌弘

コード：LB52308, 科目ナンバリング：LHM-PSY324J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学特殊実験Ⅰ
2. Course Title (授業題目)：Individual Instruction on Psychological Study I
3. 授業の目的と概要：心理学実験，心理学研究法，その他の心理学関連の授業で習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに，受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し，実験や調査を行い，データの収集と分析を試みる。卒業論文研究に進むうえで重要な授業である。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will conduct research so that they can acquire practical skills of experimentation, survey, field research, and so on.
5. 学習の到達目標：心理学の実験や調査の方法を実践的に修得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To acquire practical skills of psychological research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. ガイダンス
  2. 研究テーマの選定 1
  3. 研究テーマの選定 2
  4. 文献の検討 1
  5. 文献の検討 2
  6. 研究計画の立案 1
  7. 研究計画の立案 2
  8. 実験・調査の実施 1
  9. 実験・調査の実施 2
  10. 実験・調査の実施 3
  11. 実験・調査の実施 4
  12. データの分析 1
  13. データの分析 2
  14. レポート作成 1
  15. レポート作成 2
8. 成績評価方法：

出席 (30%)、レポート (70%)
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし  
心理学専修の学生は必ず履修してください（履修できるは、原則として心理学専修の学生に限ります）。次セメスターの心理学特殊実験Ⅱと連続履修してください。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。

科目名：心理学特殊実験Ⅱ／ Individual Instruction on Psychological Study II

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時. 後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB62307, 科目ナンバリング：LHM-PSY325J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学特殊実験Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Individual Instruction on Psychological Study II
3. 授業の目的と概要：心理学実験，心理学研究法，その他の心理学関連の授業で習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに，受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し，実験や調査を行い，データの収集と分析を試みる。卒業論文研究に進むうえで重要な授業である。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will conduct research so that they can acquire practical skills of experimentation, survey, field research, and so on.
5. 学習の到達目標：心理学の実験・調査の方法を実践的に修得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To acquire practical skills of psychological research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. ガイダンス
  2. 研究テーマの選定 1
  3. 研究テーマの選定 2
  4. 文献の検討 1
  5. 文献の検討 2
  6. 研究計画の立案 1
  7. 研究計画の立案 2
  8. 実験・調査の実施 1
  9. 実験・調査の実施 2
  10. 実験・調査の実施 3
  11. 実験・調査の実施 4
  12. データの分析 1
  13. データの分析 2
  14. レポート作成 1
  15. レポート作成 2
8. 成績評価方法：

出席 (30%)、レポート (70%)
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし  
心理学専修の学生は必ず履修してください（履修できるは、原則として心理学専修の学生に限ります）。前セメスターの心理学特殊実験Ⅰと連続履修してください。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。